

経営比較分析表（平成28年度決算）

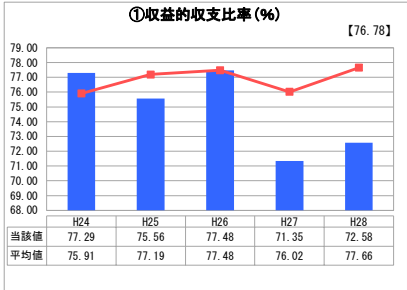
島根県 出雲市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20㎡ ³ 当たり家庭料金(円)	
-	該当数値なし	7.50	2,896	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
174,948	624.36	280.20
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
13,101	54.10	242.16

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 平成28年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



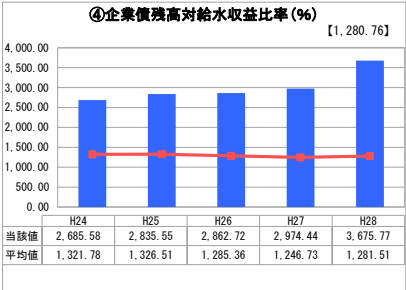
「単年度の収支」



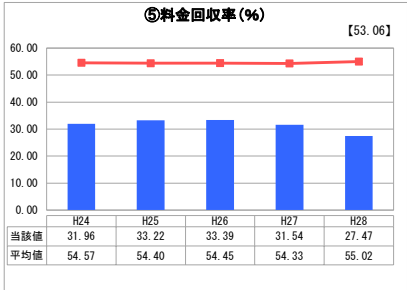
「累積欠損」



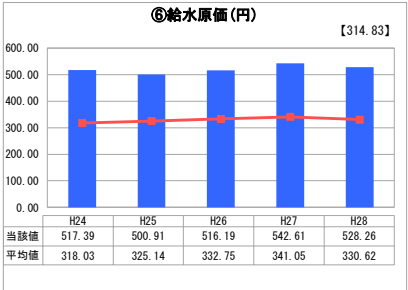
「支払能力」



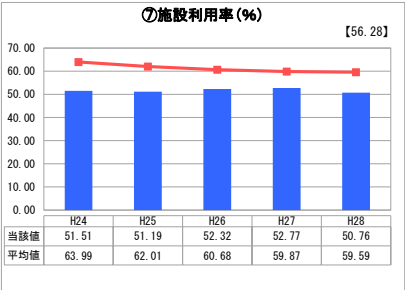
「債務残高」



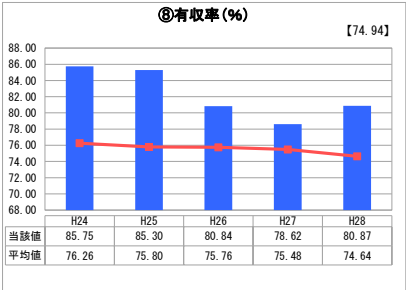
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

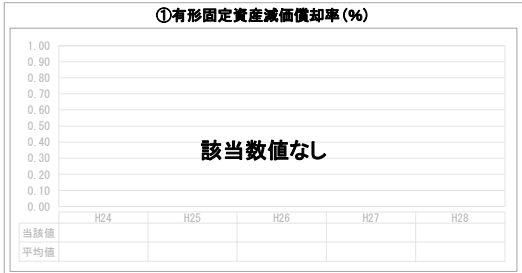


「施設の効率性」



「供給した配水量の効率性」

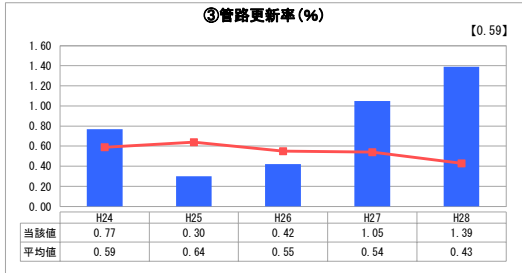
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

※ 平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①簡易水道事業は、上水道事業と同じ料金体系としているため、一般会計からの繰入金により収支均衡を図っている。打ち切り決算が影響し、総収益の減少よりも総費用等の減少が上回ったため、平成27年度より高くなっている。

④簡易統合に向けた設備投資を進めてきたため、企業債残高は増加し、打ち切り決算の影響により給水収益も減少したためである。

⑤上水道事業と同じ料金体系としていること及び打ち切り決算が影響しているため平成27年度より低くなっている。

⑥簡水統合に伴う打ち切り決算が影響し、総費用が減少したため平成27年度より向上した。

⑦簡易水道の給水区域は、人口減少が続いており、従来の施設では、施設規模が大きくなりがちである。

⑧漏水調査及び簡水統合に伴う施設更新により、漏水が減少したことや寒波等の影響もなかったため、有収率が向上した。

2. 老朽化の状況について

簡易水道事業の上水道事業への統合に向けた、施設整備を積極的に進めたため、平成27年度より向上した。

全体総括

簡易水道事業は、投資効率が悪く財政基盤が脆弱であるが、市民生活にとって重要なライフラインである水道水を提供する行政サービスである。そのため、上水道事業と同じ料金体系としていることから、経営の健全性・効率性の追求には限界がある。

また、簡水統合に向けた設備投資により比率が向上している。

なお、平成28年度は打ち切り決算としたため、類似団体等との単純な比較はできない。